



長野県で四県親善スポーツ大会開催



五種目のうち、四種目で優勝、 一種目で準優勝

10月27日、長野市内のホワイトリングとオリンピックスタジアムにおいて、新潟、群馬、埼玉の各県農大との親善スポーツ大会が開催されました。いずれも僅差の厳しい戦いを制し、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、軟式野球は優勝、卓球も準優勝を勝ち取りました。また、選手以外の全学生が運営スタッフとして活躍し、りっぱな大会となりました。

成長する 子どもたち



農業大学校校長
小林 夏樹

一年生が、先進農家に泊まり込んで、農作業等を体験する現地体験実習から帰ってまいりました。

受け入れていただいた農家の皆さん、受入農家との調整、集合研修等お世話いただいた農業改良普及センターの皆さん本当にありがとうございました。おかげさまで、貴重な体験をし、顔つきが変わってきました。

二年生は一年生のうちから取組んできたプロジェクト演習の十二月の発表会に向けてまとめに入ったところです。

さて、新聞等で御案内と思いますが、「信州型事業仕分け」の対象に農業大学校運営事業が選定され、九月四日に仕分け事業が行われました。就農率が低いこと等が議論され、仕分け結果は、「要改善」とされました。これを受けて、対応策の検討が始まっていますが、検討結果を反映した学校運営の変更は、少し先になります。

新入生歓迎会・ウォークラリー

四月二〇日、新緑の松代でウォークラリーが開かれました。入学式からちょうど一週間、まだ緊張した面持ちの新生たちは二年生の先輩にリードされ、城下町松代を散策しました。新しい生活の始まりです。

しかし、今年の一年生は例年よりも心なしかリラックスして、早くも先輩とも打ち解けているように見えます。総合農学科のキャンパスは、昨年から一、二年生が統合されましたが、今年から寮も同学年ではなく先輩と同じ部屋としたためかと思えます。寮生活の基本、授業の受け方、実習や農作業。先輩からきめ細かなアドバイスを受けて、一年生はスムーズに親元を離れた

キャンパス・ライフを楽しんでいるようです。



ラリーを終えて松代城二の丸で先輩と昼食

各コースの歳時記

作物コース



作物コースは田植えからはじまります

野菜コース



ゼミでは実際の農家を訪れ実習もします

花きコース



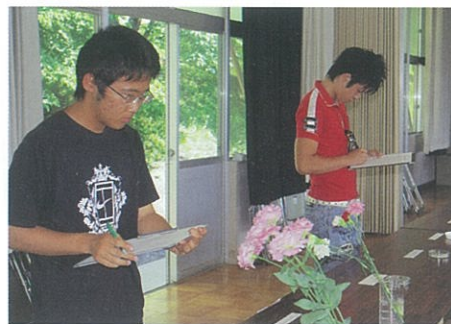
果樹コース



収穫されたブドウの色、糖度等品質を皆でチェックします



実物鑑定に集中



入学したばかりの学生が最初に受ける試験はなんでもしょうか。農大の入学試験は数学や国語、

農業、生物等の科目がありますが、実は実物鑑定なのです。実践を重視する農業大学校では作物の品種や病気、農業に使う資材等が何を自分で見極めなければなりません。

農業簿記

教授登場

竹内 洋夫 先生



黒板に数字が並び学生たちは熱心にノートで計算をしています。「経営者の能力は算力と才覚。いずれも

簿記と深く関わりを持ちます。ですから理論と演習で仕分けから決算までをマスターし、最後に純損益がピタリ合致する複式簿記の魅力を感じて欲しいと思います」

授業を担当する竹内先生は専門技術員のときから複式簿記指導を担当し、改良普及協会では経営責任者としてパソコンでの記帳・決算を行っていた実践者だけに「それが経営感覚を磨くことにつながります」との言葉には説得力がありました。





バックホウ



玉がけ



フォークリフト

なにやら機械ばかりの写真が並んでいます。実はこれは、工業専門学校顔負けの農業大学の授業の一コマなのです。トラクターはもちろん、フォークリフト運転、小型移動式クレーン、玉掛け技能、機械整備と学生たちは資格取得のために汗を流します。



機械整備



農業機械メーカーで研修



大特牽引



トラクター

資格取得の夏！

農家体験実習！

9月5日から29日まで1年生は恒例の農家体験実習に参加しました。朝2、3時からの出荷、台風の中での作業。毎回出される農家の自家製の食事に最初はとまどった学生たちも「情熱を持って生産している想いを学んだ」「精神的にも鍛えられ偏食もなくなった」と最後には前向きな言葉が飛び出し、顔も日焼けしてたくましくなって戻ってきました。



伊勢丹三越で広報部長から第一線のリアルなマーケティングの講義を受けました

二年生は十月四日から六日まで、農産物マーケティング論の実施研修で、群馬県甘楽ふるさと村、東京の大田市場等を視察しました。
メインは銀座のアンテナショップ。学生たちは班別に分かれ自由研究しましたが、銀座のデパ地下で小泉元首相に出会った学生もいて、やはり東京と納得していました。



お客様から「次回も楽しみにしてるからよろしくね」と声をかけられ、「農業
は、見たことのない品種も多くさすが農業の最先端！」とブログにも紹介され好評でした。

農大産の農産物を地域の人にも味わってもらいたい。九月二五日に「第五回ながの軽トラ市 in 篠ノ井」に出店しました。
巨峰、ピオーネ、花束、じゃがいも、タマネギ等を軽トラ2台に積み込んで学生たちが販売しました。数多くのお客様から「次回も楽しみにしてるからよろしくね」と声をかけられ、「農業

農産物マーケティング

軽トラ市での出荷



阿部知事との懇談会

八月五日、総合農学科一年生三名、二年生四名は、小諸キャンパス研修部で昼食をとりながら、知事との意見交換を行いました。

就農へのハードル、就農後の夢等についての知事からの質問に「就農後は実家の水稲の規模を拡大し、法人化を目指したい」「ネットを活用し観光果樹園への集客を増やしたい」といった夢を学生は語りました。

「物を作り食べてもらう喜びを感じる人が食料生産を担って欲しい。自分たちの食料は自分たちで賄うことは重要。農業者が一番恵まれているので、若い皆さんの奮起を期待する」と知事からは強いエールが送られました。



実習見学・食を通じて「農」を学ぶ調理学

「これは、一年の後期から始まる選択科目の一つ「調理学」の風景です。授業もあります。実際に包丁を使うのがミソ。料理専門学校でも教鞭を取る寺島恵子先生は、授業を通じて、料理の技術より、健康につながる食生活を考えるきっかけになることを学生たちに期待するといいます。「例えば、今日はハンバーグのスープにマコモダケを使いましたが、竹の子がなくても、うまみが出せることを知ってもらいたいです。料理を考えて素材を準備するのではなく、食材を前にして料理を考える。旬の時期に地元でとれる食材をどう料理すれば一番美味しいのか。そこから、食と農とのつながりがわかるのです」

平成24年度長野県農業大学校「総合農学科」学生募集!!

作物育種学の専門授業



(農業試験場でイネの交配方法を学ぶ)



(果樹試験場で品種改良の現場を見学)

- 人数：60人（うち、推薦入学者おおむね50%）
- 対象：高校卒等 ■修学年限：2年
- 専攻コース
 - 作物・畜産・野菜・果樹・花きの中から入学後の授業や実習等を通じて専攻コースを選べます。
- 資格・特典
 - 在学中に次の資格・免許の取得のための学習等を行います。
 - 毒物劇物取扱者、大型特殊免許（農耕車）、車両系建設機械運転技能、フォークリフト運転技能、小型移動式クレーン運転技能、玉掛け技能、家畜人工授精師他
 - 卒業者は、人事院規則等に基づき、短大卒業と同等に扱われ、また専門士の称号が付与されます。
- 推薦入試

願書受付	23年10月24日(月)～11月4日(金)
入学試験日	23年11月15日(火)
- 一般入試

願書受付	23年12月12日(月)～12月28日(水)
入学試験日	24年1月10日(火)
- 問い合わせ先

長野県農業大学校事務局 TEL 026-278-5211(代)